

前回：素数判定・素因数分解のアルゴリズム

- 素数判定
 - ★ Fermat テスト
 - ★ Agrawal-Kayal-Saxena の
多項式時間アルゴリズム
- 素因数分解
 - (多項式時間アルゴリズムは知られていない)
 - ★ 二次篩法
 - ★ 数体篩法 等々

素因数分解問題の高速なアルゴリズムの発見



RSA 暗号の解読

しかし、逆は真とは限らない
(解読には色々な方法があり得る)

「何で負けても負けは負け」

素因数分解問題の高速なアルゴリズムの発見



RSA 暗号の解読

しかし、逆は真とは限らない

(解読には色々な方法があり得る)

「何で負けても負けは負け」

代表的な公開鍵暗号方式

- **RSA 暗号 (Rivest-Shamir-Adleman)**
- **Diffie-Hellman 鍵共有**
- **ElGamal 暗号**

→ 離散対数問題の利用

代表的な公開鍵暗号方式

- **RSA 暗号 (Rivest-Shamir-Adleman)**
- **Diffie-Hellman 鍵共有**
- **ElGamal 暗号**

→ **離散対数問題**の利用

離散対数問題 (Discrete Logarithm Problem)

p : 素数

$g \in \mathbb{Z}$ を 1 つ取って固定

a を与えたとき、

$x \equiv g^a \pmod{p}$ の計算は容易だったが、逆に、

問題 : x を与えたとき、

$$g^a \equiv x \pmod{p}$$

を満たす a を見出せ。

離散対数問題 (Discrete Logarithm Problem)

p : 素数

$g \in \mathbb{Z}$ を 1 つ取って固定

a を与えたとき、

$x \equiv g^a \pmod{p}$ の計算は容易だったが、逆に、

問題 : x を与えたとき、

$$g^a \equiv x \pmod{p}$$

を満たす a を見出せ。

Diffie-Hellman 鍵共有 (key-exchange)

離散対数問題 (DLP) の困難さを利用して、
公開通信路で秘密裡に鍵共有を行なう方式

p : 素数

$1 \leq K \leq p - 1$ なる整数 $K \in \mathbb{Z}$ の一つを
公開通信路で秘密裡に共有したい

p と互いに素な整数 $g \in \mathbb{Z}$ を 1 つ取って固定
($g \bmod p$ の位数が充分大きいように選んでおく)

A, B 両者が ランダム かつ 秘密裡に
それぞれ a, b を選ぶ

Diffie-Hellman 鍵共有 (key-exchange)

離散対数問題 (DLP) の困難さを利用して、
公開通信路で秘密裡に鍵共有を行なう方式

p : 素数

$1 \leq K \leq p - 1$ なる整数 $K \in \mathbb{Z}$ の一つを
公開通信路で秘密裡に共有したい

p と互いに素な整数 $g \in \mathbb{Z}$ を 1 つ取って固定
($g \bmod p$ の位数が充分大きいように選んでおく)

A, B 両者が ランダム かつ 秘密裡に
それぞれ a, b を選ぶ

Diffie-Hellman 鍵共有 (key-exchange)

離散対数問題 (DLP) の困難さを利用して、
公開通信路で秘密裡に鍵共有を行なう方式

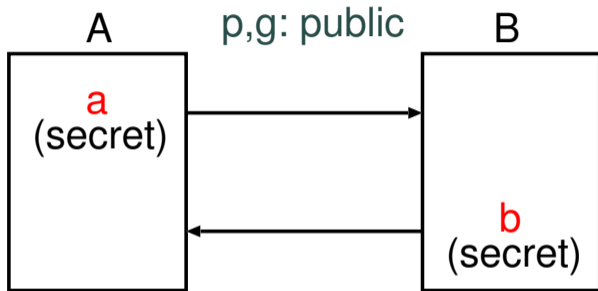
p : 素数

$1 \leq K \leq p - 1$ なる整数 $K \in \mathbb{Z}$ の一つを
公開通信路で秘密裡に共有したい

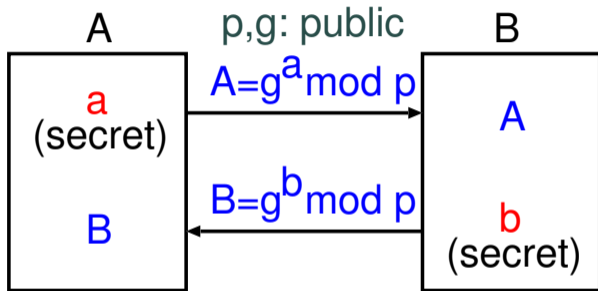
p と互いに素な整数 $g \in \mathbb{Z}$ を 1 つ取って固定
($g \bmod p$ の位数が充分大きいように選んでおく)

A, B 両者が ランダム かつ 秘密裡に
それぞれ a, b を選ぶ

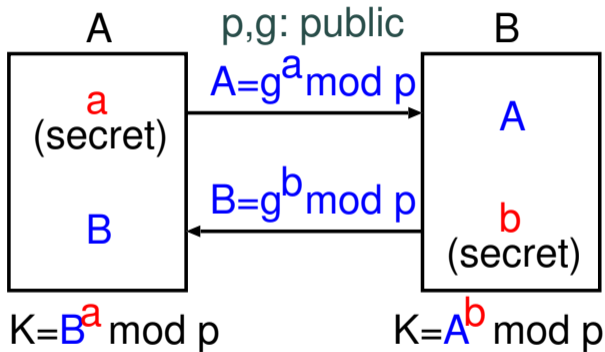
Diffie-Hellman 鍵共有 (key-exchange)



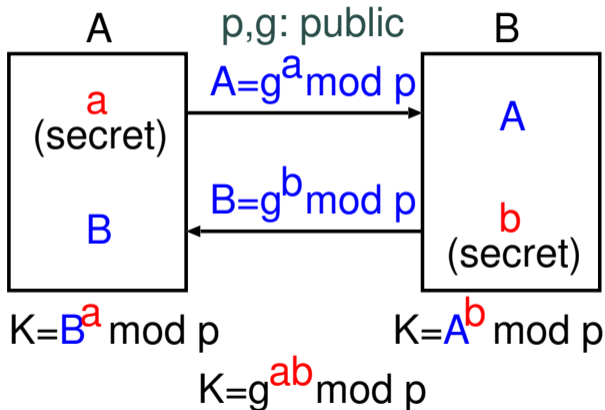
Diffie-Hellman 鍵共有 (key-exchange)



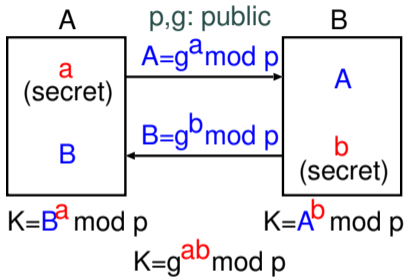
Diffie-Hellman 鍵共有 (key-exchange)



Diffie-Hellman 鍵共有 (key-exchange)



Diffie-Hellman 鍵共有 (key-exchange)



(p, g, A, B) が判っても a, b が判らない (DLP)

→ 秘密鍵 K の共有が可能 !!

EIGamal 暗号 (EIGamal encryption system)

離散対数問題 (DLP) を利用し、
乱数を用いた暗号方式

p : 素数

p と互いに素な整数 $g \in \mathbb{Z}$ を 1 つ取って固定
($g \bmod p$ の位数が充分大きいように選んでおく)

平文 $M \bmod p$ を **A** から **B** へ送りたい

EIGamal 暗号 (EIGamal encryption system)

(p, g) : 公開鍵

$M \bmod p$: 平文

受信者 **B** が b を ランダム かつ 秘密裡に 選ぶ
→ $B := g^b \bmod p$ を公開

送信者 **A** が a を ランダム かつ 秘密裡に 選ぶ
→ $A := g^a \bmod p$, $C := B^a M \bmod p$ を送信

受信者 **B** は $M = (A^b)^{-1} C \bmod p$ によって復号

EIGamal 暗号 (EIGamal encryption system)

(p, g) : 公開鍵

$M \bmod p$: 平文

受信者 **B** が b を ランダム かつ 秘密裡に 選ぶ
→ $B := g^b \bmod p$ を公開

送信者 **A** が a を ランダム かつ 秘密裡に 選ぶ
→ $A := g^a \bmod p$, $C := B^a M \bmod p$ を送信

受信者 **B** は $M = (A^b)^{-1} C \bmod p$ によって復号

EIGamal 暗号 (EIGamal encryption system)

平文 M \longrightarrow 暗号文 (A, C)

- 送信データ長が 2 倍 (メッセージ膨張)
- 乱数により、同じ文書が毎回異なる暗号化

疑似乱数 (pseudorandom number)

充分ランダムに 見える 長い周期の数列を
発生させるアルゴリズム

“Mersenne Twister” (松本-西村、松本-斎藤)
… 現在、事実上最強のアルゴリズム

- MT19937:
 - ★ 極めて長周期 (周期 $2^{19937} - 1$)
 - ★ 極めてランダム (623 次元均等分布)
 - ★ 極めて高速
- 本来は Monte-Carlo simulation 用
- 暗号には適切なハッシュ関数と組み合わせる

疑似乱数 (pseudorandom number)

充分ランダムに 見える 長い周期の数列を
発生させるアルゴリズム

“**Mersenne Twister**” (松本-西村、松本-斎藤)
… 現在、事実上最強のアルゴリズム

- MT19937:
 - ★ 極めて長周期 (周期 $2^{19937} - 1$)
 - ★ 極めてランダム (623 次元均等分布)
 - ★ 極めて高速
- 本来は Monte-Carlo simulation 用
- 暗号には適切なハッシュ関数と組み合わせる

疑似乱数 (pseudorandom number)

充分ランダムに 見える 長い周期の数列を
発生させるアルゴリズム

“**Mersenne Twister**” (松本-西村、松本-斎藤)
… 現在、事実上最強のアルゴリズム

- **MT19937:**
 - ★ 極めて長周期 (周期 $2^{19937} - 1$)
 - ★ 極めてランダム (623 次元均等分布)
 - ★ 極めて高速
- 本来は **Monte-Carlo simulation** 用
- 暗号には適切なハッシュ関数と組み合わせる

離散対数問題を利用した方式は
他の有限アーベル群でも可能

- 有限体上の楕円曲線の有理点の群
(楕円曲線暗号)
- 有限体上の超楕円曲線の **Jacobian** の有理点の群
(超楕円曲線暗号)
- 代数体の **ideal** 類群